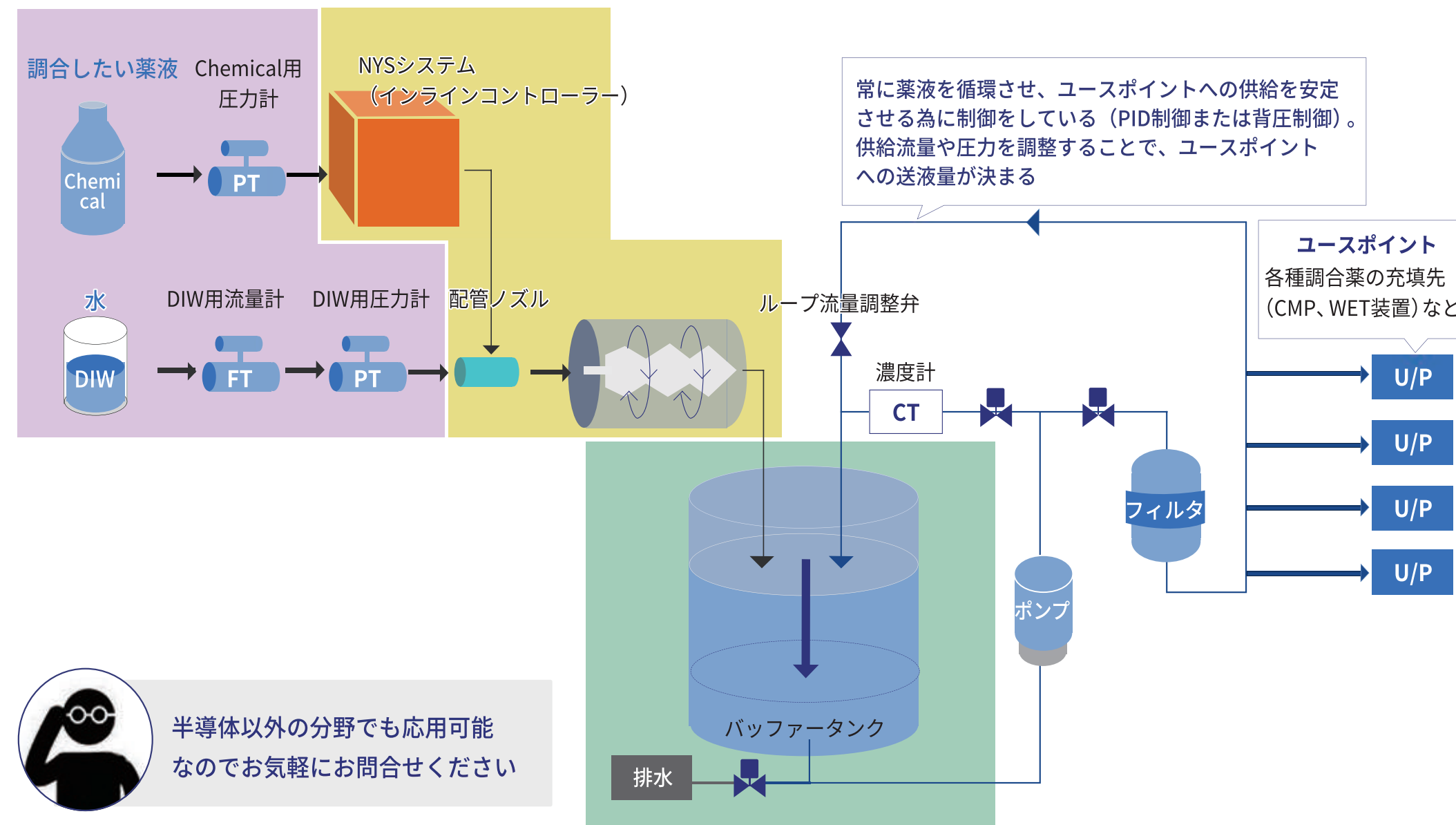


CHEMICAL MIXING METHOD

薬品調合法

NYS独自の薬品調合方法なら、複雑な装置を使わず、
シンプルな仕組みで【高効率】×【高精度】×【省コスト】を実現。

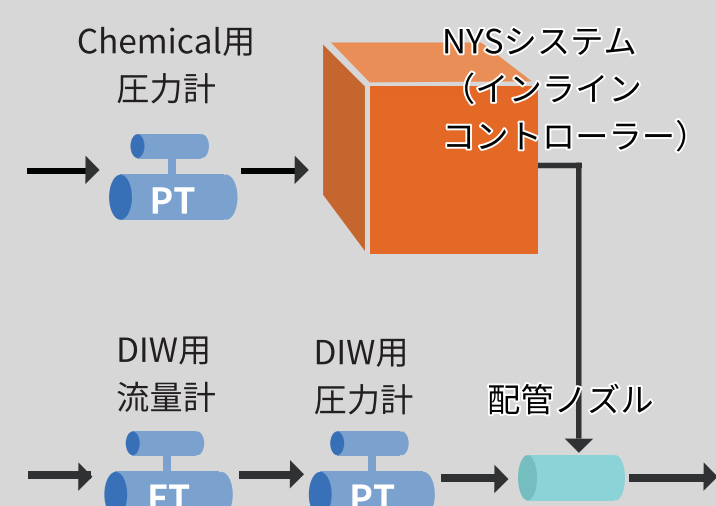
例) 自社開発のインライン調合システムの場合



半導体以外の分野でも応用可能
なのでお気軽にお問合せください

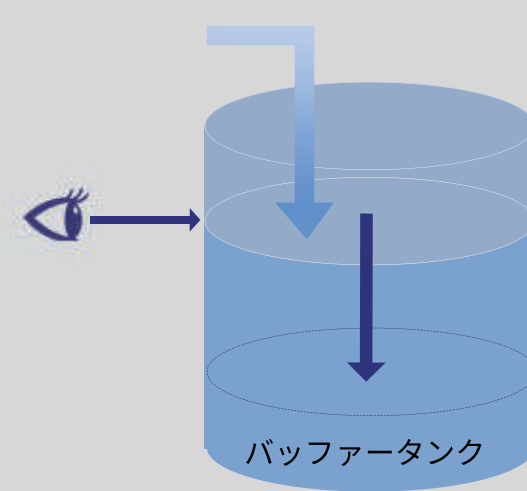
高精度の調合を実現できる理由

調合の精度を上げるポイントは、薬液と水を混ぜ合わせる前の工程で使用する機器の精度にこだわること。
西村ケミテックでは、システム装置、圧力計、流量計、配管ノズルに至るまで、機器の精度を上げるため、機器メーカーと共同開発している



継ぎ足し運転機能

調合した薬液をタンクに溜め、U/P (薬瓶など) に送液していく。
タンク内の薬液が減ると、液面低下を察知するセンサーが働き、液面が一定の高さになるよう継ぎ足し調合を行い、貯液量を調整する機能がついている



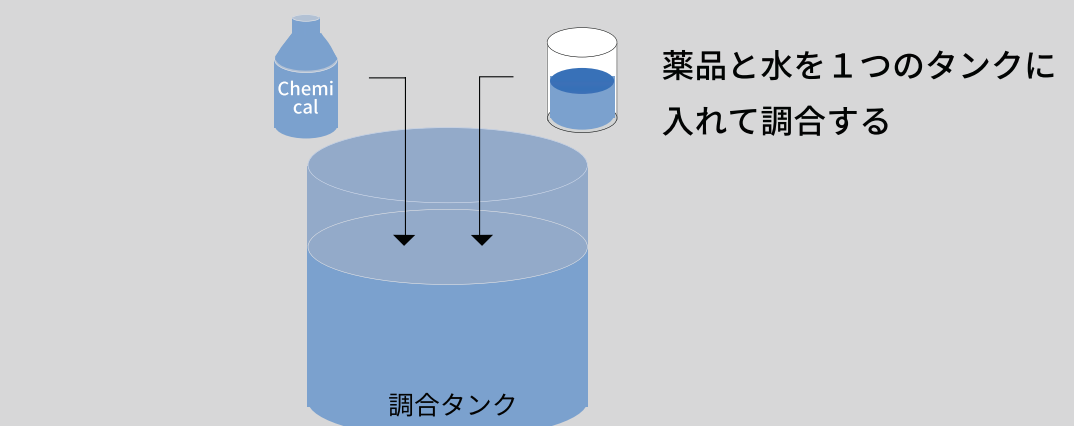
配管の中に「ミキサー機能」と「タンク機能」を実装

【従来方式】

薬品と水を1つのタンクに入れて調合する

デメリット

- ・不純物 (ゴミ) が入りやすい
- ・1つのタンクにつき1回の調合しかできない
- ・連続送液するためには、調合用タンク、供給用タンクを別々に設置する必要がある
- ・生産性を上げるためにはタンクを増設するしかないため、物理的な設置スペースが大きくなる



NYS なら・・・

タンクに入れる前に、配管の中で薬品と水を混ぜ合わせる

メリット

- ① 省スペース
調合と攪拌を同時に配管内で行えるため、タンクの設置数・設置面積が最小限で済む
- ② 高精度の調合
調合中は外気に触れさせず、配管の中で調合するため、不純物混入の心配がない
- ③ 高効率の運用
タンクに入れる前に調合作業が完了するため、タンク内の調合液を送液中でも継ぎ足しが可能。また、薬液濃度の変更に容易に対応できる
- ④ 生産性向上
送液している間も濃度を継続的に監視して安定供給が可能。継続的に調合作業を進められる (リアルタイム監視機能つき)
- ⑤ 低コスト
①～④を実現するため、総合的に低コスト化を実現

